

私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	401008	学校法人名	福岡大学		
大学名	福岡大学				
事業名	ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造～福奏プロジェクト～				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	17120人
参画組織	基盤研究機関研究所、産学官連携研究機関研究所、医学部、薬学部、スポーツ科学部、人文学部				
事業概要	現代社会において、子育て力の低下、学校不適応の子供の増加、生活習慣病の蔓延、高齢者の認知症や閉じこもりなど、健康な時間を過ごせない問題が生じている。本福奏プロジェクトは、家族支援、学校教育支援や中・高齢者活動を通じて、身体的・心理的・社会的介入を実施し、活力ある人間をつくる健康先進プログラムを開発することにより、大学の「知」を社会の「価値」に転換し、健康持続社会の実現につなげる。				
①事業目的	<p>本学のスローガンである「人をつくり、時代を拓く。」は、教育方針として掲げる全人教育を「人をつくり」に託し、教育・研究・医療を通じて、社会の発展に積極的に貢献している姿を「時代を拓く」に託している。創立100周年に向け、「建学の精神」に立ち返り、「積極進取」の気概を持って「エネルギーで行動的な大学」の実現に向け「アクティブ福岡大学」を掲げ活動している。本事業の目的は、「社会に活力を生み出すアクティブ福岡大学」として、ライフタイムにおける活力を形成し、健康な時間を創造することである。そのため、福岡大学における医学、薬学、スポーツ科学さらには教育・臨床心理学の成果をもとに、自治体及び企業と連携して「福奏(フクソウ)」プロジェクトを展開する。福奏とは、地域の助け合いを基盤に、人々の福(ハッピー)を奏でることにより、健康持続社会の実現を目指すことである。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p>平成29年度の目標</p> <p>チームⅠ【中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究】 健康づくり:前年度の予備試験を踏まえ、ヘルスツーリズム(HT)の本試験を行う。 サイバニクス:神経難病の患者会の理解と協力のもと、ロボットスーツHybrid Assistive Limb(HAL®)を用いた四肢可動域回復、運動機能回復プログラムに着手する。 社会活動支援:企業社員180人へのコミュニケーションスキル研修の全社展開を図る。</p> <p>チームⅡ【学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究】 学校適応:研究協力校の選定と協力校への介入開始前の事前説明を行う。初年度介入(小学4年-関係性スキル(基礎)、中学1年-関係性スキル(応用・発展)) 体育支援:定期評価と体育支援の遂行、支援対象校の拡大へ向け協議を継続する。</p> <p>チームⅢ【妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究】 妊娠期の子育て支援活動を継続・拡大、ハイリスク妊婦への支援拡充。 【ブランディング】全学的なブランディング推進会議でブランディングを含めた広報全般に関する中長期計画を策定する。</p> <p>平成29年度の実実施計画</p> <p>Ⅰ 健康づくり:スロージョギング®を用いた健康プログラムの発展型の一つであるHTに焦点を当て、対象者数の増加を図り、HTが有酸素能や身体組成の変化に与える影響を検証する。⇒対象者の増加(目標40名)、有酸素能の亢進(呼吸ガス分析装置)、皮下脂肪及び筋厚の短期効果を検証し(超音波エコー法)参加者のモチベーションに繋がったか、エネルギー消費量を測定し(二重標識水法)脂肪量減少との関係を検証できたかで評価する。 サイバニクス:神経難病者及び健常者を対象に、HAL®を着用した際の運動強度別の酸素摂取量や疲労度・心電図のデータを収集する⇒着用の有無や回数別に、各運動強度における各種データが整理できたかで評価する。 社会活動支援:12月までに西部ガスCS西事業所検針員24人のコミュニケーションスキル演習を完了し、1月から実際に活動を始める。1月から全社員150人に向けて展開を図る。⇒自己式アンケート、コミュニケーション到達評価表と理解度に関する調査、半構造化面接法を活用した質的研究で効果を検証し、180人への研修の実施が達成されたかで評価する。</p> <p>Ⅱ 学校適応:福岡市教育委員会の協力のもと小中学校を1校ずつ選定し、教師や児童、保護者への事業説明と研究スタッフの事前研修を実施する。第1期(小4・中1)を対象に、1学期に2回(年6回)Social Skills Training(SST)に基づく指導を実施し、各学期及び年度末に所定の評価表で効果を測定する。⇒自己評価、学級担任による生徒の社会的スキルと集団内行動特徴に関する評定を依頼、Q-Uテストの個別結果借用(中学)、担任又は保護者による日常生活での社会的技能に関するチェックリストの評定を依頼(小学)。 体育支援:継続支援校の体力等に係る定期評価を遂行すると共に、支援対象校の拡大へ向け福岡市教育委員会との協議を継続する。コーディネーショントレーニング(CT)のDVD作成に係る作業を進めると共に、教員対象の研修会を実施する。⇒定期評価の結果報告まで完了したか、支援対象校が増加したか、DVD作成の進捗度合いで評価する。</p> <p>Ⅲ 子育て準備期の継続支援活動を福岡市子育て支援課・城南区と協同し地域の一般住民へも展開する。医療/社会的ハイリスク、特定妊婦の早期発見と支援の組織化を行い、女性・周</p>				

<p>②平成29年度の実施目標及び実施計画</p>	<p>産期外来にて妊娠期からフォローアップ体制の支援を行う。⇒祖父母学級(目標8回)、ハイリスク妊婦への支援活動(目標50組)、地域住民の支援活動参加(目標30組)によりフォローアップ体制が構築できたかで評価する。 【ブランディング】ブランディング推進会議、広報委員会で検討を重ね、中長期計画を平成29年度中に策定する。</p>
<p>③平成29年度の事業成果</p>	<p>チームⅠ【中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究】 健康づくり:スロージョギングの実施に観光名所を巡るなどのツアーの要素を取り入れ、低カロリーでも満腹感が得られる食事を組み合わせたヘルスツーリズムを2回実施した(1期:2泊3日+自主管理1ヶ月+2泊3日、2期:2泊3日+自主管理1ヶ月)。参加者は合計12名で、1日の活動量は平均3~4万歩であった。結果は、第1期終了時は体重-2.5kg・有酸素能+0.8METs、第2期終了時は体重-2.8kg・骨格筋量+0.4kg・体脂肪量-3.2kgを達成した。自主管理期間も含め1ヶ月で体重を約3kg減量させ、骨格筋量を減らさずに体脂肪のみ減少させることができた。 社会活動支援:企業検針員23名を対象とした、全10回(終了式を含む)から成るコミュニケーションスキル向上の研修プログラムが完遂した。月に一回のペースで実施、一回180分間のプログラムであった(2回目のみ90分)。評価として、毎回のコミュニケーション自己評価12項目(5件法)と、介入前後のエゴグラム調査をアンケート形式で実施した。結果は、コミュニケーション項目の4項目で有意な向上を認め、エゴグラム(TEGⅡ)のA(ADULT)の項目で対照群との比較で交互作用(P<0.05)が認められた。「あなたにもできる見守りネットワーク ~もしものためのハンドブック~」や研修紹介の動画を作成した。平成30年1月から全社展開を開始した。</p> <p>チームⅡ【学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究】 学校適応:小中学校1校ずつのモデル校を選定し、小学4年生150名(5クラス)と中学1年生120名(3クラス)を対象に、SSTに基づく指導を行った。実施者は訓練を受けた学生・大学院生で、小学校は1クラス当たり3人一組で45分間、中学校は2人一組で50分間実施した。1年間の実施回数は、小学校は計5回、中学校は計4回であった。評価は社会的スキル評価尺度を使用し、小学校は計4回、中学校は計3回行った。小学校は1クラス30人の生徒を3班に分けて、それぞれに担当が入り実施を試みたところ、参加生徒の集中力や意欲が高まり、介入の目的達成に効果的であったと推察された。中学校は特別の時間を作る難しさが、まだ効果を感じるまでには至っていない。今後、評価の分析を進め、詳細な効果の判定を進めていく。 体育支援:福岡市内の小学1~6年生2,413名を対象に、体格(肥満)と体力の関係について分析を行った。肥満傾向児は他の2群に比べ握力が有意に高値を示し、女兒の反復横とび、男女兒の20mシャトルラン・50m走・立ち幅とびは有意に低値を示した。また、肥満傾向児は睡眠時間が標準時に比べ有意に短く(25.2分)、TV視聴時間は有意に長かった(19.0分)。児童の肥満が生活習慣とは独立して新体力テストの一部項目と関連していることが明らかとなった。コーディネーショントレーニングの体育授業への導入に向けた取り組みでは、①書籍およびDVDの作成に係る作業は全て終了し平成30年4月1月付で福岡市内の全小中学校へ配布予定である。②現場学校教員への研修を計7回実施した。③効果検証として、通常の体育授業実施群と比較する方法で介入実験を実施した所、介入群にコーディネーション能力の著しい向上が認められた。</p> <p>チームⅢ【妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究】 ハイリスク妊産婦・新生児の健康支援として支援講座を10回開催し、合計114名の参加であった。プレママ・パパスクールを開催した(①赤ちゃん先生とママグループセッション、②「小児科かかりつけ医」を見つけよう)。さらに、当初予定を前倒しし、子育て期における支援として2つの研修を実施し、合計118名の参加であった。いずれの講座も、参加者の満足度は非常に良好であった。また、福岡市「こども未来局」との連携として、こども発達支援課・子育て支援部監査課・福岡市城南区保健福祉センターと協議を行い、「ふくおか子ども情報メールマガジン」の配信や「平成30年度福岡市健康安全研修会」の開催、医療シュミレーターを用いた研修、「育児講座」の案内、広報協力、講座の共同開催について、今後取り組んでいくことで調整を図った。 【ブランディング】平成29年12月に「福岡大学ブランディング戦略会議規程」を制定した。平成30年1月に同会議を設置し、本学のブランド力の構築や強化に向けて取り組みを開始した。</p>
<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)事業全体として、キックオフ会議の開催、HPの開設(日本語版・英語版)、「福奏プロジェクト」パンフレットの作成、報告書の取りまとめと外部評価の実施、研究ブランディング推進会議の開催等に取り組んだ。各研究チームの進捗状況と合わせ、研究事業全体として概ね順調に進んでいるものと判断している。今後の課題は、産学官の連携体制の強化、3チーム間の繋がりのある研究事業を構築、エビデンスを確保していく上での評価方法の構築である。 (外部評価)外部評価委員10名(有識者・企業・自治体)に、平成29年度報告書一式を送付し、書面による外部評価を行った。研究事業のテーマ設定や方向性について、時代の要請や社会のニーズに対応している点や、これからの政策課題である点、本学の将来ビジョンと整合性が取れている点などにより、「興味深い」「期待できる」「最適である」等の評価を頂いた。一方、今後への期待や課題として、産学官連携の協働スキーム調整・確立、プロジェクト全体が地域の中で一体的な取り組みの形となること、質の高い効果検証、地域社会への効果的な広報、データ基盤の整備・利活用の推進等の助言を頂いた。</p>
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成29年度私立大学等研究設備整備費等補助金における補助対象事業経費は、49,265,449円(総事業経費は49,282,560円)、補助金確定額は32,842,000円及び自己資金は16,440,560円であり、計画調書で申請した設備機器を購入した。以上の他に研究推進本部会議、福岡大学研究ブランディング推進会議で承認された事業計画による平成29年度予算額は25,000,000円で、3チームの経費と共通費用で、約20,800,000円を執行した。内訳は、人件費、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費、機械器具費、謝金、その他雑費(HP作成関連費、会議費、学会関連費)等である。</p>